

文化・芸術

「三色すみれ」

制作年不詳、油彩・カンバス
24.2cm×41.0cm

藤川栄子（1901～83年）

春から初夏にかけて咲く三色スミレの花は、チヨウの舞うかたちともいわれています。本作に描かれた三色スミレも、紫、白、黄の3色がとても映えていてかわいらしいです。画面上部には、大きく広く描かれた空。少し雲の立ち込めたこの空を、スミレが仰ぎ見ているようにも見えます。この大胆な構図により、鑑賞者はスミレと同じ視線へと引き込まれ、地面の低い位置でしっかりと開花するスミレの生命力を間近に感じることができます。

藤川栄子は、香川県高松市に生まれます。1923年、彫刻家の藤川勇造と結婚。その後、夫や安井曾太郎から絵を学び、27年第14回二科展で初入選。戦前は写実を中心に描いていましたが一時、抽象へと画風が変化。晩年は再び具象に戻りました。47年には二科会会員となり、同じ年、三岸節子らと共に、女性画家の地位向上と新人の登竜門を目的とした女流画家協会を設立。日本の女性洋画家の先駆的存在として活躍しました。

（池田）



〈名画の扉〉

大川美術館特集展示から